

## ( 公開学習 ) 第 2 学年 2 組 図画工作科学習指導案

授業者 妻藤 純子

図工室

### 1 題材名 かたちをのこそう

### 2 授業構成

#### ( 1 ) 教師と教材

粘土の特性の一つとして可塑性があり、その特性によりさまざまな表現の可能性が挙げられる。扱いやすい性質から幼児期からの粘土遊び、彫塑の材料として積極的に用いられることの多い造形素材でもある。ここでは、児童にとっては馴染み深い粘土を用いつつも、素材としての可能性の広がりを感じさせ、新たな技法とかたちの偶然性を発見する喜びを味わわせたい。その方法として粘土遊びの発展として、型取りの手法を扱う。型取りの手法により、粘土を他の保存できる材料に材質転換させることができるという新たな表現方法と出会うことができる。型取りのプロセスには、ネガ（雌型）を作り石こうを流し込んで割り出し、型を取るということへの興味と偶然性の楽しさがある。石こうを流し型取ることでネガ（雌型）がポジ（雄型 = 作品）になるという「型の反転」が、驚きとともに、粘土の豊かな表現性を再認識するきっかけとなると考えている。

本時は、扱いやすい材料や身近な材料に親しむことを重点にした造形遊びに位置づける。自分の思いをもとにし、かたちを生み出すプロセスを通して、活動の楽しさやおもしろさを十分体感できるとともに、この体験が今後の造形活動の基盤になりうるものと考えている。思い思いのかたちや模様を刻むことを楽しみ、「かたちを残す」という時間をも意識した学びに取り組みさせたいと考えた。時間を越えてかたちが残るということ意識した活動は、時間を越えた人とのつながりを生む造形の魅力に触れるとともに、かたちにこだわり、さらなるかたちへのイメージの広がりが期待できると考える。そこで、粘土べら等を使うことで自分なりに工夫しながら凸凹のかたちや模様を刻んで残す、「活動」からのアプローチによる授業構成にした。

#### ( 2 ) 子どもと教師

一般的に工作の学習では、ねらいを達成するために自分のつくりたいものをまず構想し、それに向かってさまざまな技術的要素を使ってつくり上げていく学習が多い。割り箸やストロー等の身近な材料を使い、それらの接合の仕方や立たせ方を考えながら制作したり、紙を切り抜いて、窓を開けるといった作品づくりを通してカッターナイフの使い方を習得したりする等、先の見通しや計画性を考えながらの学習がある。しかし、本題材のように粘土を用いた学習では、自分のつくりたいものに向かってつくるという学習だけでなく、偶然にできたかたちや模様を楽しむこと、かたちや模様に関わり何度でも作り替えることができるなど、他の素材を用いた工作とは異なった活動ができる。児童は、これまでに身のまわりにあるかたちや模様を見つける学習をし、見つけたかたちや模様には、意図的につくられたもの、岩の凸凹のように偶然出来上がったものがあることに気づいている。また、円、三角、四角といった直線で囲まれた基本的なかたちの認識が強かったが、かたちには曲線で囲まれたものも多々あることを再認識することができた。

そこで本時は、既習の学習を想起し、凸凹を意識しながら思い思いのかたちや模様を刻む楽しさを感じ、道具を使って自分だけのかたちや模様を工夫して表す力を育てたいと考える。また、粘土のへこませたところを「石こう流し」によりとび出させるという新たな技法を獲得することで、今後の制

作活動における一表現方法となるようにしたい。

### (3) 子どもと教材

本題材の導入の学習であるので、学習への意欲を高めるために、古代の人々が意図的にまたは無意図的に石や大地に残した造形的な活動等を鑑賞することで、時間を超えて残すという意識を持つことから始めたい。そして、粘土にかたちや模様を刻むことを通して、偶然にできる模様のおもしろさを感じたりへこみのかたちを楽しんだりさせたい。2年生の子どもたちにとって、粘土べらやその他の用具を使って粘土にかたちや模様を刻むことは容易なことではあるが、ネガ（雌型）から石こうを流し、乾燥後割り出した後のかたちがポジ（雄型）になるという、型の反転をイメージしながら制作することはとても難しい。本時では、一人一人が型の反転のイメージを持つために、班ごとに粘土と速乾性のある凝固材を使って簡単なネガ・ポジの関係を体験する。この体験を通して、ネガがポジになることへの発見や驚きを感じさせ、刻む活動への意欲づけを図りたい。そして、粘土の板に自由に模様を刻む行為を楽しみ、再び練り直せば何度でもやり直しのきく粘土の特性をいかし、試行錯誤しながらかたちにこだわった活動にしたいと考える。児童の中には、線描のみで模様を表そうとする児童もいると思われるので、かたちを連続させたり組み合わせたりすることでも模様が表せることに気づかせたい。また、既習の学習を想起し、模様を浮き立たせることをイメージさせながら取り組ませたい。未来の自分へ残すという意識を持たせることで、刻んだかたちが単調にならないよう、こだわりをもった制作活動になるようにしたい。

## 3 題材の目標

- ・型の反転をイメージしながら、粘土の板に型押しや刻み模様をつけることや、石こう流しで反転したかたちのおもしろさを楽しむ。（関心・意欲・態度）
- ・粘土べらなどを使って、いろいろなかたちや模様を表す。（創造的技術）
- ・友だちと作品を紹介し、かたちのおもしろさやよさに気づく。（鑑賞）

## 4 学習計画（全6時間）

- 第1次 粘土の板に残したいかたちや模様を刻むことを楽しもう（2時間 本時1/2）
- 第2次 枠取りをして、型に石こうを流し込もう（2時間）
- 第3次 粘土を外し、できたかたちを紹介しよう（2時間）

## 5 本時の学習について

### (1) 本時の目標

- ・いろいろなかたちや模様を、粘土べらなどを使って押ししたり引いたりして、粘土に刻むことを楽しむ。

### (2) 本時の活動

- ・粘土の板に粘土べらなどを使って、凸凹を意識して残したいかたちや模様を刻む。

### (3) 期待される児童の様相

- ・粘土の感触を楽しみながら、かたちや模様を刻む。
- ・かたちを残すことを意識し、かたちや模様にかわりを持ちながら刻む。
- ・凸凹を意識しながら模様を刻む。

( 4 ) 本時の展開 ( 教師の意図 全体への支援 個への支援 )

学習活動	教師の支援・意図
<p>1 . 古代から残っている足跡や造形活動の 写真を見て話し合う。</p> <p>2 . 今日の学習を知り、めあてをもつ。</p> <div data-bbox="199 696 647 792" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>でこぼこのかたちや模様を残そう</p> </div> <p>3 . どんなかたちや模様があるか想起する。 ・ 円，四角，三角 ・ グニャグニャのかたち ・ 玄関マットや校舎の壁などの模様</p> <p>4 . 粘土にかたちや模様を刻む。 ・ 粘土の感触を楽しみながら，かたちや 模様を刻む。 ・ 粘土を練り直すなどこだわりを持ちな がら刻む。 ・ 凸凹模様を意識しながら模様を刻む。</p> <p>5 . 残したいかたちや模様を紹介する。</p> <p>6 . 本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>人がかつて残したかたちや模様等を提示することで， 単なる素材としての粘土とのかかわりから，未来の 自分に残すという主体的なかかわりになるきっかけ づくりをする。</p> <p>写真を見て思ったことを発表し合う中で，それを刻 んだ人々の思いや，時間を超えて残った不思議さに 気づかせたい。</p> <p>参考作品を提示し，石こう流しで型取りをしてかた ちを残すことを伝え，ネガ（雌型）とポジ（出来上 がった作品）の関係について説明する。イメージし にくい児童も多いと予想されるので，班で粘土に模 様を刻み，速乾性の凝固材を入れ，ネガ・ポジの関 係に気づくことができるようにしたい。</p> <p>かたちや模様見つけの学習を思い起こし，かたちや 模様を表すことを意識づけたい。また，自分なりの 模様にするためのヒントとなるよういろいろなかた ちや模様を掲示する。</p> <p>自由に粘土ベラ等を使って，凹凸を表すことを楽し ませたい。</p> <p>粘土べらを中心に制作させるが，割り箸やボルトな どいくつか道具を準備し，活動のイメージが広がる ようにする。</p> <p>型を押す場合，粘土を貫通すると石こうが流れ出 てしまうので，押す深さを浅めにするように伝える。</p> <p>どんなかたちや模様を刻むか困っている児童には， 友だちの活動や掲示物を見せることでイメージを持 たせたり，粘土は何度でもやり直しができることを 再確認したりすることで安心して活動に取り組める ように促す。</p> <p>どんなかたちや模様を，どんな道具を用いてつく ったのか，なぜその模様を残そうと思ったのか等，実 物投影機を使って伝えあうことで，友だちの思いや こだわりに気づかせたい。</p> <p>自分がどんなイメージやこだわりをもって，かたち や模様を刻んだか振り返らせ，かたちを残すという 思いをふくらませたい。</p>